

法曹養成制度改革顧問会議（第11回）資料（弁護士 河崎 健一郎）

1 略歴

- 1976年 埼玉県生まれ。
- 1999年 早稲田大学法学部卒業。
同年アンダーセンコンサルティング（現・アクセンチュア株式会社）入社。
主に金融業，製造業を対象とした人事・組織コンサルティングに従事。
- 2004年 同社退職。早稲田大学大学院法務研究科（早稲田大学ロースクール）入学。
- 2007年 同研究科修了（法務博士＜専門職＞）。同年司法試験合格
- 2008年 司法修習終了。同年弁護士登録（東京弁護士会）。
東京駿河台法律事務所にて勤務弁護士として主に一般民事業務に従事。
- 2013年 千代田区九段下にて早稲田リーガルコモンズ法律事務所の創設に参画。生活困窮者の支援活動，原発事故避難者の支援活動などにも取り組んでいる。

〔役職等〕

- ・ 早稲田リーガルコモンズ法律事務所 代表弁護士
- ・ 日本弁護士連合会災害対策本部 原子力対策PT委員
- ・ 日本弁護士連合会死刑廃止検討委員会 委員
- ・ 早稲田大学大学院法務研究科 アカデミックアドバイザー
- ・ 特定非営利活動法人山友会 理事
- ・ 一般社団法人つくろい東京ファンド 監事
- ・ 日本ペンクラブ言論表現委員会 委員 他

〔著作等〕

- ・ 「知識創造経営の実践」（共編著，PHP出版，2003年）
- ・ 「高校生からわかる 政治の仕組みと議員の仕事」（共著，トランスビュー，2013年）
- ・ 「避難する権利、それぞれの選択」（共編著，岩波書店，2012年）
- ・ 「3・11大震災 暮らしの再生と法律家の仕事」（共編著，日本評論社，2012年）
- ・ 「国家と情報」（共編著，現代書館，2011年）他

2 法科大学院に入学した経緯

- 不良債権処理に関わる公的機関での経験が契機
- ビジネスローヤーを目指してロースクールへ入学
- 早稲田ロースクールに決めた理由・・・興味深い面接試験でのやりとり

3 法科大学院での経験

- 大いに勉強した法科大学院時代
- さまざまな世代，さまざまなバックグラウンドの優秀な学生が集まってくる〈場〉の魅力
- 印象に残る授業・・・「刑事訴訟実務の基礎」での緊張感のある授業
- 民事クリニック，刑事クリニックなど実務系科目での貴重な経験
- ロースクールでの様々な経験や出会いの中で，いわゆる「街弁」として，一般民事事件を扱いながら公益活動に取り組む弁護士へと志望を転換
- 金銭的負担の実際・・・貸与奨学金（約1000万円）の重い負担
- 見過ごされている「法曹になれなかった人たち」の重い学費借財
- 社会人から進学する場合に問題となる時間的コスト・・・見通しのない中で最短でも約5年という長さの苦しさ

4 法科大学院時代を振り返って

- スクール形式の法曹養成機関の持つ意味
- 授業と授業の間，教室と教室の間に落ちている価値
- 専門職業人としての人的基盤の形成に寄与
- 他の職業ではなかなか得られない法律家の仕事の魅力
- 法曹養成プロセスへの新規参入が細っていることは極めて残念
- 人材の再生産プロセスへ・・・早稲田リーガルcommons法律事務所の取組み
- 予備試験との対比・・・若くて試験に強い人材を選別する一発試験にはない，スクール形式ならではの価値を実現できるかどうか

(参照) 法科大学院「生」フォーラム（法学セミナー2008年2月号）

以上